

平成 29 年度（2017）事業報告概要

国際交流事業		
1	講演会	・ジョン・キラカ氏（8/4.5、世界の子どもの本展関連事業）
2	IBBY 支部としての活動	・第 3 回 IBBY アジア・オセアニア地域大会（5/9-13、タイ） ・国際子どもの本の日キャンペーン（3 月） ・年会費の支払／スポンサーとの橋渡し
3	国際賞への推薦	・ブラティスラヴァ世界絵本原画展（4 月） 推薦事業と国内巡回展への協力 ・IBBY オナーリスト（9 月） ・IBBY 障害児図書コレクション（2 月）
4	派遣・出展事業	・ポーロニャ・ブックフェア出展（4/3-6） ・国際アンデルセン賞国際選考委員派遣 ・ブラティスラヴァ世界絵本原画展（BIB）国際審査員推薦
5	協力事業ほか	・ミュンヘン国際児童図書館長懇談会（国際子ども図書館主催、2/28）
調査研究・情報提供事業		
1	図書展	・世界の子どもの本展と講演会（11 会場） ・世界のバリアフリー絵本展（3 月）
2	ブックリストの作成	「IBBY オナーリスト 2016 日本語版リスト」（8 月） 「Japanese Children's Books 2018」（2 月） 「おすすめ！ 日本の子どもの本」（3 月） 「おすすめ！ 世界の子どもの本」（発行準備）
3	講座、研究会	・新編集者講座（4 回、9 月～11 月） ・国際アンデルセン賞講座（5 回、10 月～2 月）
4	会報の発行	・Book & Bread（年 4 回、6・9・12・3 月）
5	ウェブサイト	・ホームページ ・Facebook ・Twitter ・メールマガジン
6	JBBY 賞	・第 5 回贈賞式（6/16）
7	協力事業ほか	・文部科学省（子どもと本をつなぐネットワークフォーラム） ・子どもの読書推進会議 ・後援名義 ほか
その他事業		
1	ポーロニャ国際絵本原画展	・巡回展事務局業務（国内 4 会場）
2	希望プロジェクト	・学びの会（4 回、12 月～3 月） ・支援活動（野馬追文庫、子ども食堂 ほか）
3	フォーラム・子どもたちの未来のために	・勉強会やイベント
4	物販	

平成 29 年度（2017）事業報告書

（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

【国際交流事業】

1. 国際講演会

ア) ジョン・キラカ氏講演会 ※ 「子どもゆめ基金」助成活動

大阪国際児童文学振興財団が日本に招聘したタンザニアの絵本作家ジョン・キラカ氏を東京に招きワークショップと講演会を実施した。両日とも「アフリカを楽しむ子どもの本展」（アフリカ子どもの本プロジェクト）を併催。

共催：大阪国際児童文学振興財団、アフリカ子どもの本プロジェクト、

AFJ アフリカンキッズクラブ

協力：岩波書店、西村書店

(1) 子ども対象ワークショップ

タイトル	ワークショップ「キラカさんと一緒に絵を描こう!」
日時	2017年8月4日（土）
会場	青山学院女子短期大学学食／図工室（東京都）
講師	ジョン・キラカ氏（タンザニアの絵本作家） 通訳：井上真悠子氏 進行：細江幸世氏
参加者	小学生 26 人＋保護者

(2) 講演会

タイトル	アフリカの豊かな語りと絵本づくり
日時	2017年8月5日（日）
会場	東京ウィメンズプラザホール（東京都）
講師	ジョン・キラカ氏（タンザニアの絵本作家） 通訳：岩井雪乃氏、フランス・マゲジ氏 聞き手：さくまゆみこ氏
参加者	101 人

2. IBBY 支部としての活動

ア) 第 3 回 IBBY アジア・オセアニア地域大会（隔年）

バンコク（タイ）で行われた第 3 回 IBBY アジア・オセアニア地域大会に、板東悠美子 JBBY 会長（当時）ほか日本から 21 人が出席。分科会での発表、布の絵本づくりワークショップ、紙

芝居のワークショップなど積極的に参画した。

会期：2017年5月9日～13日

テーマ：Read = Life（読むことは生きること：デジタル時代における子どもの本）

全体参加者：25カ国 270人

■IBBY アジア・オセアニア大会

IBBYの世界大会とは別に、2013年からアジア・オセアニア地域のIBBY支部による地区大会が始まった。第1回（2013）インドネシア、第2回（2015）マレーシア、第3回（2017）タイ。2019年は中国、2021年はカンボジアで予定されている。地域大会は、アジアのほかに、北米、南米、アフリカ、アラブなどでも開催されている。

イ) 国際子どもの本の日キャンペーン

IBBYが定めた「国際子どもの本の日」（4月2日、アンデルセンの誕生日）を記念し日本でも事業を行った。

(1) 世界共通ポスターとメッセージの発信

IBBY各国支部が順番に作成するポスターとメッセージを日本語版にし、JBBY会員のほか、全国の公共図書館や関連施設約5,000カ所に配布した。

2018年制作担当国	ラトビア共和国
ポスターアート画家	レイニス・ペーテルソンス氏
メッセージ作者	イネセ・ザンデレ氏（日本語訳：原田勝氏）
日本語版ポスター	A2サイズ、6,000部

(2) 記念イベントの実施 ※「子どもゆめ基金」助成活動

子どもたちに本と読書への興味を喚起し、異文化への理解や知るよろこび、共生の大切さを伝えるため、講演会や参加型ワークショップ、めずらしい本に出会う機会を提供するイベントを実施した。

催事名	子どもの本の日フェスティバル 2018
日時	2018年3月24日（土）25日（日）
会場	ゲートシティ大崎ゲートシティホール、アトリウム（東京都）
後援	東京都教育委員会、品川区教育委員会、子どもの読書推進会議 出版文化産業振興財団、読書推進運動協議会、日本ペンクラブ
協力	ゲートシティ大崎管理組合、日産自動車株式会社
プログラム	世界の児童書を展示（IBBY各国支部が選んだ2016年IBBYオナーリストとJBBYが選んだ日本の子どもの本 約400冊） バリアフリーの部屋：IBBYが選定した2017年コレクション、静岡文化芸術大学

	主催ユニバーサルデザイン絵本コンクール入選作品、女子美術大学学生作品「見えない子どもたちが初めて出会う本」を展示
	IBBYの紹介パネル展示、世界のポスター展示
	ワークショップ「『くものニイド』のくもの巣づくり」（講師：いとうひろし氏）
	ワークショップ「お面 DE パレード」（講師：スズキコージ氏）
	科学あそび「生物多様性ってなに？ にぼしの解剖とチリメンモンスターを探せ!」（講師：坂口美佳子氏ほか）
	科学あそび「宇宙ってどんなところ？ 月齢早見盤をつくろう!」（坂口美佳子氏ほか）
	ブックトーク・おすすめ児童書の紹介（ナビゲータ：さくまゆみこ、代田知子、依田和子、岩間恵子、中野怜奈 各氏）
	ワークショップ「ゲームで物語を作ろう!」（講師：赤羽卓美氏ほか）
	読み聞かせと絵本クイズショー（おとなの絵本プロジェクトのみなさん）
	あそび歌（あそび歌作家のみなさん）
	読みきかせ（安富ゆかり氏）
参加者	のべ2,407人（子ども1,038人／大人1,369人）

■国際子どもの本の日

IBBYは1966年に、アンデルセンの誕生日である4月2日を「国際子どもの本の日」と定め、各国で本を普及するイベントを奨励した。翌67年からは、IBBY支部が交代に記念ポスターとメッセージを作成し、世界中に発信するようになった。

ウ) 会費の納入と、IBBY=日本企業との橋渡し

年会費7500スイスフラン（=867,950円）を納めた。また、IBBYの活動を支援する朝日新聞社（IBBY朝日国際児童図書普及賞）、山田養蜂場（IBBY山田プログラム）との連携を助けた。

IBBYには現在75の国と支部が加盟しており、会費額はその国の年間児童書出版点数を基準に決まる。日本はカテゴリー1に属する。	
カテゴリー1	フランス、ドイツ、イギリス、アメリカ合衆国、日本
カテゴリー2	オーストラリア、ベルギー、カナダ、中国、イタリア、韓国、オランダ、スペイン、スウェーデン、スイス、アラブ首長国連邦
カテゴリー3	デンマーク、ノルウェイ
カテゴリー4	オーストリア、ブラジル、チェコ、フィンランド、インド、アイルランド、イスラエル、メキシコ、ポーランド、ロシア
カテゴリー5	アルゼンチン、アイスランド、イラン、マレーシア、ニュージーランド、スロベニア、タイ、トルコ
カテゴリー6	チリ、コロンビア、クロアチア、キプロス、エジプト、ギリシャ、ハンガリー、インドネシア、スロバキア、南アフリカ、ベネズエラ
カテゴリー7	アゼルバイジャン、エクアドル、エストニア、ヨルダン、ラトビア、リトアニア、

	パキスタン、ペルー、チュニジア、ウクライナ
カテゴリー8	アフガニスタン、アルメニア、ボリビア、カンボジア、コスタリカ、キューバ、ガーナ、ハイチ、レバノン、モルドバ、モンゴル、ネパール、パレスチナ、ルワンダ、ウガンダ、ウルグアイ、ザンビア、ジンバブエ

3. 国際賞への推薦

ア) 2018年国際アンデルセン賞

(1) 3月26日に、イタリアで開催中のボローニャ・ブックフェアにて、IBBYの記者会見が行われ、JBBY推薦の角野栄子氏が、2018年国際アンデルセン賞・作家賞を受賞したことが発表された。

■国際アンデルセン賞

1953年にIBBYが創設した子どもの本の国際的な賞で「Little Nobel（小さなノーベル賞）」と称される。3年の準備期間を経て1956年に第1回の授与式が行われた。IBBYに加盟する支部が推薦する候補者の中から、2年に一度、子どもと子どもの本に最も貢献した作家と画家の全業績を対象に贈られる。選考は、世界11カ国から選任された国際選考委員（委員長含）があたる。日本からは、赤羽末吉（1980 画家賞）、安野光雅（1984 画家賞）、まど・みちお（1994 作家賞）、上橋菜穂子（2014 作家賞）の4氏が受賞しており、角野栄子氏は5人目。

2018年国際アンデルセン賞

作家賞	角野栄子氏（日本）
画家賞	イーゴリ・オレイニコフ氏（ロシア）
ショートリスト	作家賞：マリー・オード・ミュライユ（フランス）、ファハド・ハッサンザデ（イラン）、ジョイ・カウリー（ニュージーランド）、ウルフ・スタルク（スウェーデン）
	画家賞：パブロ・ベルナスコーニ（アルゼンチン）、リンダ・ヴォルフスグラーベル（オーストリア）、熊亮（中国）、イヴォナ・フミエフルカ（ポーランド）、アルバータイン（スイス）

IBBYの発表を受け、翌27日に、日本出版クラブ会館（東京都）において緊急記者会見を行った。角野氏のスピーチに加え、進行役のさくま会長がIBBYと国際アンデルセン賞について、野上副会長が角野作品について、国際選考委員を務めた土居安子氏がボローニャから国際電話でコメントを述べた。

(2) 2018年の国際審査団は、新しい試みとして、国際アンデルセン賞の推薦資料として提出された61名の候補者による約300冊の児童書の中から、多くの言語に翻訳され世界中で読まれるべき作品を選び「Very Best Books」として発表した。2018年は15冊が挙げられ、田島征三氏の『ぼくのこえがきこえますか』（童心社）が選ばれた。

The Nest	ケネス・オッペル（カナダ）
Simple	マリー・オード・ミュライユ（フランス）
Marka Mai	ミリアム・プレスラー（ドイツ） 邦訳あり『マルカの長い旅』（松永美穂 訳、徳間書店）
Ziba Sedayam	ファハド・ハッサンザデ（イラン）
Duel	デイヴィッド・グロスマン（イスラエル）
Fuori fuoco	キアラ・カルミナーティ（イタリア）
The Duck in the Gun	ジョイ・カウリー（ニュージーランド） 邦訳あり『大砲のなかのアヒル』（岩倉務 訳、平和のアトリエ）
Ropotarna	ペテル・スヴェタナ（スロベニア）
Barro de Medellin	アルフレッド・ゴメス＝セルダ（スペイン） 邦訳あり『雨あがりのメデジン』（宇野和美 訳、鈴木出版）
Kan du vissla Johanna?	ウルフ・スタルク（スウェーデン） 邦訳あり『おじいちゃんの口笛』（菱木晃子 訳、ほるぷ出版）
Tschipo	フランツ・ホーラー（スイス）
O monster eet me niet op!	カルル・クヌート（ベルギー）
Jane, the Fox and Me	イザベル・アルスノー（カナダ） 邦訳あり『ジェーンとキツネとわたし』（河野万里子 訳、西村書店）
ぼくのこえがきこえますか	田島征三（日本） 童心社
Les Oiseaux	アルバータイン（スイス）

イ) 2017年ブラティスラヴァ世界絵本原画展（BIB）（隔年事業）

(1) 推薦事業

国内選考会を実施して15名の作家と作品を選出し、原画をスロバキアへ出展した。結果、49カ国373人の画家による出展作品の中から、荒井真紀氏が『たんぽぽ』（金の星社）で「金のりんご賞」を、ミロコマチコ氏が『けもののおいがしてきたぞ』（岩崎書店）で「金牌」を受賞し、在日スロバキア大使館の協力で贈賞式を行った。また、JBBYが推薦した広松由希子氏が、日本人として初の国際審査委員長に選任され、BIB 功労賞を受賞した。

■ ブラティスラヴァ世界絵本原画展（BIB）

1967年に旧チェコスロバキアで始まった絵本原画の国際コンクールで隔年開催。ひとつの国から最大15人の画家しか参加できないため、厳選された最もクオリティの高いコンクールとされている。IBBY 支部またはユネスコ国内委員会が国内選考をするのが通例。本選では、グランプリ1名、金のりんご賞5名、金牌5名が選ばれる。

国内選考会

選考会	2017年4月24日（月）、日本出版会館（東京都）
選考委員	笹本純、広松由希子、松岡希代子、山田志麻子 各氏

日本から推薦した作家と作品（15人15作品）

あずみ虫	『わたしのこねこ』（福音館書店）
荒井良二	『きょうはそらにまるいつき』（偕成社）
荒井真紀	『たんぼぼ』（金の星社） ※「金のりんご賞」受賞
石黒亜矢子	『えとえとがっせん』（WAVE出版）
きくちちき	『ぱーおーぼのうた』（佼成出版社）
こしだミカ	『でんきのビリビリ』（そうえん社）
スズキコージ	『ドームがたり』（玉川大学出版部）
tupera tupera	『わくせいキャベジ動物図鑑』（アリス館）
どいかや	『ひまなこなべ』（あすなる書房）
中野真典	『どもるとだっく』（ブロンズ新社）
町田尚子	『ネコツメのよる』（WAVE出版）
皆川 明	『はいくないきもの』（クレヨンハウス）
ミロコマチコ	『けもののおいがしてきたぞ』（岩崎書店） ※「金牌」受賞
村山純子	『さるめいろ 1.2』（小学館）
ヨシタケシンスケ	『このあとどうしちやおう』（ブロンズ新社）

贈賞式

贈賞式	2017年10月5日、在日スロバキア大使館（東京都）
プレゼンター	マリアン・トマーシク 駐日全権大使
受賞者	金のりんご賞：荒井真紀氏 金牌：ミロコマチコ氏 功労賞（ハーフアップル）広松由希子氏

(2) 国内巡回展への協力

国際コンクール推薦者の立場で、読売新聞社美術館連絡協議会と各開催館が主催する巡回展「ブラティスラヴァ世界絵本原画展——絵本の50年これまでとこれから」に協力した。

埼玉県	うらわ美術館	2016年7月9日～8月31日
岩手県	岩手県立美術館	10月29日～12月11日
千葉県	千葉市美術館	2017年1月4日～2月26日
栃木県	足利市立美術館	4月8日～5月28日
神奈川県	平塚市美術館	7月8日～8月27日

ウ) 2018年IBBYオナーリスト（隔年事業）

国内選考会を実施して、3部門3作品を選出しIBBYへ提出した。

■IBBY オナーリスト

IBBY 各国支部が、2年に一度、外国の子どもたちに読んでもらいたい自国の児童書を選出する。文学作品、イラストレーション作品、翻訳作品の3部門がある。JBBYは1988年からオナーリストに選ばれた本を入手し、国内で巡回図書展を行っている。

国内選考会

選考会	2017年9月20日（水）、国立国会図書館国際子ども図書館（東京都）
選考委員	さくまゆみこ、代田知子、土居安子、野上暁、広松由希子 各氏

選考結果

文学作品部門	『フラダン』古内一絵 著、小峰書店
イラストレーション 作品部門	『ドームがたり』スズキコージ 絵 アーサー・ビナード 文、玉川大学出版部
翻訳作品部門	『お静かに、父が昼寝しております』母袋夏生 訳 ユダヤの民話、岩波書店

エ) IBBY バリアフリー児童図書（隔年事業）

国内選考会を実施して、3つのカテゴリーに8冊を選出・推薦した。偶数年の事業だったが、本年より推薦時期が早まった。

■IBBY 障害児図書資料センター

1985年、障害児向けの図書の調査研究と利用の促進を目的にノルウェーのオスロ大学特別支援研究所の中に設立。以降、各国支部から障害児の読書を助ける優れた児童書を収集し、特に際立った作品のカタログを発行して、アイデアバンクとしての役割を果たす。2002年にバールムのハウグ特別支援学校図書館リソースセンターへ移転、2014年にカナダのトロント市立ノースヨーク中央図書館へ移転。

国内選考会

選考会	2018年2月21日（水）、国立国会図書館国際子ども図書館（東京都）
選考委員	さくまゆみこ、柏原順太、林左和子、村中李衣、山田真 各氏 （世話人：攪上久子氏）

日本から推薦した作品

カテゴリー1：スペシャルアプローチ（特別な配慮を必要とする子どものために制作された図書）	『さわるめいろ2』村山純子 作、小学館
	『布の絵本：モグモグパッケン』てのひらの会
カテゴリー2：ユニバーサルアクセス（障害があってもなくても楽しめる一般市販絵本）	『はっぱ もり やま』あだちひろな 作（自主制作）
	『このあいだになにがあった?』 佐藤雅彦、ユーフラテス 作、福音館書店

	『ごはん』平野恵理子 作、福音館書店
	『夏がきた』羽尻利門 作、あすなろ書房
	『まるさんかくぞう』及川賢治・竹内繭子 作、文溪堂
カテゴリー3：ポートレート（障害について描かれた本）	『ともだちのときちゃん』岩瀬成子 著、フレーベル館

4. 派遣・出展事業

ア) 2018年国際アンデルセン賞国際選考委員

土居安子氏（大阪国際児童文学振興財団総括専門員、前 JBBY 理事）を、2018年国際アンデルセン賞国際選考委員に派遣した。国際選考は、パトリシア・アルダナ選考委員長と、10カ国から選出された10名の選考委員が審査にあたる。土居氏は2017年1月から1年をかけて総勢61名の候補者の作品を読み込み、2018年1月にスイスで開催された数日間にわたる国際選考会議に出席した。英語以外の言語については以下の関係者の協力を得た。

協力：宇野和美氏（スペイン語）片桐早織氏（アラビア語/トルコ語）河野万里子氏（フランス語）櫻井映子氏（リトアニア語）寺前君子氏（中国語）南平かおり氏（ロシア語）野坂悦子氏（オランダ語）福井信子氏（デンマーク語）松村裕子氏（スウェーデン語）三田順氏（スロベニア語）母袋夏生氏（ヘブライ語）山崎理仁氏（ポルトガル語）吉富文氏（イタリア語）

イ) 2017年ボローニャ・ブックフェアへ出展

日本の子どもの本をイタリアと世界に発信するため、在イタリア日本国大使館とJBBYの共催で、2017年ボローニャ・ブックフェアにブースを出展し、日本語が読めなくてもわかる最新の絵本50冊を展示した。大使館の日伊国交樹立150周年記念企画のひとつ。

会期	2017年4月3日～6日
ブーステーマ	にほんのえほん Visually Speaking: Seeing Japan through Picture Books
主催	在イタリア日本国大使館、JBBY
特別協力	板橋区立美術館、出版文化産業振興財団、日本児童教育振興財団、日通、フランコヴァーゴ、講談社、無印良品、ヤクルト
協力	広松由希子、ジュンコ・ヨコタ、森泉文美、駒形克己、大阪国際児童文学振興財団、国立国会図書館国際子ども図書館
イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・オープングレセプション ・ミニトーク「日本の絵本」広松由希子氏 ・ミニトーク「日本の書店」兼森理恵氏 ・「クレヨン画ライブペインティング」加藤休ミ氏 ・ミニトーク「Visually Speaking」ジュンコ・ヨコタ氏

5. 協力事業

ア) ミュンヘン国際児童図書館ラーベ館長来日に伴う懇談会

国立国会図書館国際子ども図書館が主催する懇談会に出席し、さくま会長が日本の子どもの本の現状についてレクチャーした。

日時：2月28日 場所：国際子ども図書館（東京都）

【調査研究・情報提供事業】

1. 図書展

ア) 世界の子どもの本展 ※「子どもゆめ基金」助成活動

2016年IBBYオナーリストに選ばれた57の国と地域、48言語173作品と、2016年国際アンデルセン賞受賞者（作家賞 曹文軒氏、画家賞 ロートラウト・ズザンネ・ベルナー氏）の作品を11会場で展示した。各会場では、作家等による講演会を実施した。

新潟県	新潟県立図書館	2017年4月18日～30日
香川県	高松市美術館	5月2日～7日（5/7 小林豊氏講演会）
宮城県	仙台市泉図書館	7月16日～25日（7/21 小林豊氏講演会）
東京都	国際子ども図書館	8月1日～20日
埼玉県	飯能市立図書館	9月30日～10月9日（10/8 垂石真子氏講演会）
東京都	日本出版クラブ会館	10月17・18日（出版関係者内覧会）
熊本県	九州ルーテル学院大学	11月1日～7日 （11/5 さくまゆみこ氏・宇野和美氏講演会）
岩手県	盛岡市津南図書館	11月28日～12月5日 （12/2 濱野京子氏・野坂悦子氏講演会）
東京都	練馬区立光が丘図書館	2018年2月10日～16日 （2/11 濱野京子氏・西山利佳氏講演会）
東京都	ゲートシティ大崎	3月24・25日（子どもの本の日フェスティバル併催）
長崎県	長崎県立大学	3月26日～31日（3/31 野坂悦子氏講演会）

展示された日本のIBBYオナーリスト

文学作品	岩瀬成子 『あたらしい子がきて』（岩崎書店）
イラストレーション作品	吉田尚令 『希望の牧場』（森絵都 文、岩崎書店）
翻訳作品	原田 勝 『ハーレムの闘う本屋』 （ヴォーンダ・ミショー・ネルソン 著、あすなろ書房）

イ) 世界のバリアフリー絵本展

IBBYが2017年に選定した50タイトルを借り受け、子どもの本の日フェスティバル(3/24.25)で展示した。IBBYからの図書到着が遅れたため、2017年度は図書の展示のみで立上げ展準備には至らなかった。

2. ブックリストの作成

ア) 「国際アンデルセン賞とIBBYオナーリスト2016」

IBBYが英文で発行した*IBBY Honour List 2016*の日本語版を作成し、57の国と地域から選ばれた48言語173冊の推薦図書を紹介した。「世界の子どもの本展」のカタログとしても利用。

翻訳協力	赤塚きょう子、植村久美子、大作道子、冬木恵子、古市真由美、美馬しょうこ、村上利佳、宇野一美、片桐沙織、南平かおり、野坂悦子、榎敦子、国立国会図書館国際子ども図書館、各国大使館
協力	日産自動車株式会社
仕様	B5型、60頁
発行日	2017年8月

イ) 「Japanese Children's Books 2018」(海外向け英文ブックリスト)

選書委員会を立上げ、絵本・読みもの・ノンフィクションのカテゴリーで81冊を選出し、英文ブックリストを作成した。トピックスには、さくま会長による「日本の児童書出版状況レポート」をとりあげた。

選書委員会(選書と執筆)	さくまゆみこ、代田知子、土居安子、野上 暁、広松由希子 各氏
英語翻訳	宇田川エイヴリ、竹森ジニー、平野キャシー 各氏
表紙	荒井真紀氏
協力	日本児童教育振興財団
仕様	A4変型、32頁
発行日	2018年2月

2018年版掲載図書(全81冊)

◎絵本	
『ひよこさん』福音館書店	『カレーライス』福音館書店
『くまさん』こぐま社	『ぱーおーぼのうた』佼成出版社
『ゆっくりおでかけ』童心社	『ぐるぐるぐる』金の星社
『けもののおいがしてきたぞ』岩崎書店	『よるのおと』偕成社
『うおいちば』福音館書店	『おとうさんは、いま』福音館書店

『ばけバケツ』小峰書店	『へろへろおじさん』福音館書店
『かわをむきかけたサトモちゃん』アリス館	『あめがふるふる』フレーベル館
『手おけのふくろう』福音館書店	『こうさぎとほしのどうくつ』のら書店
『あからん』福音館書店	『とのさまと海』あかね書房
『夢金』あかね書房	『猫魔ヶ岳の妖怪』福音館書店
『お・は・よ・う』あすなる書房	『ばあばは、だいじょうぶ』童心社
『このあとどうしちやおう』ブロンズ新社	『さらじいさん』ブロンズ新社
『とらねことらとなつうみ』PHP 研究所	『えとえとがっせん』WAVE 出版
『ぼくはかわです』WAVE 出版	『わくせいキャベジ動物図鑑』アリス館
『ドームがたり』玉川大学出版部	
◎読みもの	
『ピクルスとふたごのいもうと』福音館書店	『キダマッチ先生!』BL 出版
『指きりは魔法のはじまり』偕成社	『靴屋のタスケさん』偕成社
『春くんのいる家』文溪堂	『マルの背中』講談社
『バンドガール!』偕成社	『あぐり☆サイエンスクラブ』新日本出版社
『ギュレギュレ!』偕成社	『二ノ丸くんが調査中』偕成社
『日小見不思議草紙』偕成社	『神隠しの教室』童心社
『ふたりユースケ』理論社	『てんからどどん』ポプラ社
『なりたて中学生 上級編』講談社	『いい人ランキング』あすなる書房
『カーネーション』くもん出版	『百年後、ぼくらはここにいないけど』講談社
『僕は上手にしゃべれない』ポプラ社	『Q→A』講談社
『こんとんじいちゃんの裏庭』小学館	『きみのためにはだれも泣かない』ポプラ社
『フラダン』理論社	
◎ノンフィクション	
『かげはどこ』福音館書店	『きゅうきゅうばこ・新版』福音館書店
『このあいだになにがあった?』福音館書店	『ぼくのものき』福音館書店
『みちくさしようよ』ほるぷ出版	『お月さまのこよみ絵本』理論社
『かつおぶしができるまで』岩崎書店	『わたり鳥』童心社
『カエルくんのだいはっけん!』小学館	『さかなのたまご』ポプラ社
『干したから…』フレーベル館	『ふくはなにからできてるの?』福音館書店
『大坂城』講談社	『お船がかえる日』岩波書店
『ファール先生の昆虫教室』ポプラ社	『世界中からいただきます!』偕成社
『はじめて見たよ! セミのなぞ』少年写真新聞社	『アイちゃんのいる教室 6年1組にじ色クラス』偕成社

『動物たちを救うアニマルパスウェイ』文研出版	『ナビラとマララ』講談社
『世界は広く、美しい』新日本出版社	『円周率の謎を追う』くもん出版
『お金さえあればいい?』クレヨンハウス	『犬が来る病院』KADOKAWA
『命の意味 命のしるし』講談社	『30代記者たちが出会った戦争』岩波書店
『紛争・対立・暴力』岩波書店	『恋の相手は女の子』岩波書店
『そして、ぼくは旅に出た。』あすなる書房	

ウ) 「おすすめ! 日本の子どもの本」(新規事業)

英文リストを日本語でも読みたいという声に応え、日本語版を作成した。

選書、執筆、表紙	英語版に同じ
協力	澤田精一氏、日本児童教育振興財団
仕様	A4変型、24頁
発行日	2018年3月

エ) 「おすすめ! 世界の子どもの本」(刊行準備、新規事業)

「おすすめ! 日本の子どもの本」の姉妹版として、日本で翻訳出版された海外の児童書リストを発行する。2018年夏の発行に向け、選書委員会をたちあげ準備を開始した。

選書委員会(選書と執筆)	さくまゆみこ、代田知子、神保和子、土居安子、福本友美子 各氏
表紙	荒井真紀氏(予定)
協力	梓澤設夫氏、株式会社デジタルカタパルト
仕様	A4変型、24頁
発行日	2018年9月(予定)

3. 講座・研究会

ア) 新・編集者講座第3期(全4回)

児童書編集者にとっての学びの場、子どもの本の未来を創る次世代の交流の場を目指し、新・編集者講座第3期を実施した。

テーマ	子どもの本の冒険——その可能性を求めて!	
日時	2017年9月20日・10月4日・25日・11月8日	
会場	小学館本社ビル2階講堂(東京都)	
講師	1回目	「児童書の編集者に期待したいことは?」 講師: さくまゆみこ氏(翻訳家、編集者、JBBY会長)

	2 回目	「ドキュメンタリーと子どもの本の可能性は？」 講師：本橋成一氏（写真家）
	3 回目	「児童書のブックデザイナーとしてのこだわりとは？」 講師：城所 潤氏（装丁家）
	4 回目	「編集者から学んだこと、刺激されたこと」 講師：今森光彦氏（写真家）
協 力	小学館	
参加者	のべ 212 人	

イ) 国際アンデルセン賞講座——日本の子どもの本は面白い！（全 5 回、新規事業）

※「子どもゆめ基金」助成活動

JBBY が推薦した 2018 年国際アンデルセン賞候補、角野栄子氏と田島征三氏の作品をともに読み、また国際アンデルセン賞や、IBBY・JBBY についてももっと知ってもらうため小規模の連続講座を 4 回、角野栄子氏と田島征三氏を招いた大きな講演会を 1 回実施した。

日 時	2017 年 10 月 20 日、11 月 17 日、12 月 1 日、2018 年 1 月 19 日、2 月 4 日	
会 場	1～4 回：ブックハウスカフェ（東京都） 5 回：東京ウィメンズプラザホール（東京都）	
講 師	1 回目	「国際アンデルセン賞とはなにか？」松岡希代子氏 「国内選考経過と選出理由」野上暁氏・広松由希子氏 「田島征三展ギャラリートーク」広松由希子氏（ゲスト：田島征三氏）
	2 回目	「角野栄子・作品の魅力」 講師：野上 暁氏
	3 回目	「田島征三の絵本を読む」 講師：広松由希子氏
	4 回目	「角野栄子の作品を読む」 講師：代田知子氏・前沢明枝氏
	5 回目	「角野栄子氏・田島征三氏をお迎えして」 第一部：田島征三氏×広松由希子氏 第二部：角野栄子氏×野上暁氏 第三部：土居安子氏（国際選考委員から）
参加者	のべ 193 人	

4. 会報の発行

会報「Book & Bread」を 4 回発行した。

コンテンツ	131 号 (2017. 6)	表紙：吉田尚令氏 インタビュー：駒形克己氏 巻末エッセイ：陣崎草子氏
	132 号	表紙／インタビュー：オリヴィエ・タレック氏

	(2017. 9)	巻末エッセイ：たかいひろこ氏
	133号 (2017. 12)	表紙：ささめやゆき氏 インタビュー：荒井真紀氏 巻末エッセイ：いとうみく氏
	134号 (2018. 3)	表紙：国際子どもの本の日ポスター（レイニス・ペーテルソンス） インタビュー：ミロコマチコ氏 巻末エッセイ：市川朔久子氏
仕 様	B5版、36頁 印刷：図書印刷株式会社	
広告協力	岩波書店、偕成社、共同印刷、くもん出版、講談社、至光社、出版文化産業振興財団、小学館、大日本印刷、東京印書館、図書印刷、凸版印刷、童心社	
編集委員会	田中秀治（編集長）、赤石忍、喜入今日子、那須奈美子、松井美紀子、松岡由紀 各氏	

5. ウェブサイト

ホームページ、Facebook、Twitter、メールマガジンを通して情報を提供した。

ホームページ <http://www.jbby.org/>

Facebook <https://www.facebook.com/JBBYpi/>

Twitter <https://twitter.com/jbbypi>

6. JBBY 賞

第5回 JBBY 賞贈賞式を行った。（隔年事業）

■JBBY 賞

JBBY が国内選考会を行って、子どもの本の国際的な賞（国際アンデルセン賞、IBBY オナーリスト、IBBY 障害児図書、BIB 世界絵本原画展、リンドグレーン記念文学賞など）に推薦した日本の作品、人、出版社に贈られる。日本の代表として海外に発信された子どもの本を国内でも周知するため 2009 年に設けた。

贈賞式

贈賞式	2017年6月16日 日本出版クラブ会館（東京都）
参加者	98名

受賞者と受賞理由

角野栄子氏	2016年国際アンデルセン賞・作家賞候補
片山 健氏	2016年国際アンデルセン賞・画家賞候補
岩瀬成子氏	『あたらしい子がきて』で2016年IBBYオナーリスト文学作品
吉田尚令氏	『希望の牧場』で2016年IBBYオナーリスト・イラストレーション作品
原田 勝氏	『ハーレムの闘う本屋』で2016年IBBYオナーリスト・翻訳作品

ぐるーぷ・もこもこ	『こんこんくしゃんのうた』で2017年IBBYバリアフリー児童図書
ミロコマチコ氏	『オレときいろ』で2015年ブラティスラヴァ世界絵本原画展「金のりんご」
岩崎書店	IBBYオナーリスト『あたらしい子がきて』（岩瀬成子）、ならびに『希望の牧場』（吉田尚令）の出版に対して
あすなる書房	IBBYオナーリスト『ハーレムの闘う本屋』（原田勝）の出版に対して
WAVE出版	BIB金のりんご賞『オレときいろ』（ミロコマチコ）の出版に対して

7. 協力事業（他団体との連携・協力）

ア）文部科学省・子どもと本をつなぐネットワークフォーラム

文部科学省が、学校・図書館・読書ボランティア団体等によるネットワーク構築の促進を目的に、全国の自治体等に委託して取り組む活動に協力した。

イ）子どもの読書推進会議

民間の読書関連団体が結成した「子どもの読書推進会議」構成員として協力した。

構成団体（順不同）：読書推進運動協議会、全国学校図書館協議会、日本雑誌協会、日本書店商業組合連合会、出版文化産業振興財団（JPIC）、日本児童出版美術家連盟（童美連）、国際子ども図書館を考える全国連絡会、日本図書館協会、日本書籍出版協会、日本出版取次協会、日本児童図書出版協会、日本児童文芸家協会、日本児童文学者協会、JBBY

ウ）後援名義の提供

他団体が主催する子どもの本関連事業を後援した。（実施順）

全国	第34回アンデルセンのメルヘン大賞	アンデルセン・パン生活文化研究所
国際	第5回ミツバチの一枚画コンクール	山田養蜂場
東京都	西巻茅子絵本デビュー50周年記念展「わたしのふしぎなワンピース」	銀座教文館
東京都	上野の森親子フェスタ2017	子どもの読書推進会議ほか
東京都	奈良美智がつくる茂田井武展（ちひろ美術館東京開館40周年記念）	ちひろ美術館・東京
全国	第34回日産 童話と絵本のグランプリ	日産・大阪国際児童文学振興財団
富山県	とやま元気ワールド 絵本ランド2017	富山新聞社ほか
全国	第1回ミツバチの絵本コンクール	山田養蜂場
長野県	日本の絵本100年の歩み（ちひろ美術館東京開館40周年・安曇野ちひろ美術館開館20周年記念）	安曇野ちひろ美術館 ちひろ美術館・東京
石川県	絵本ワールド・イン・いしかわ2017	北國新聞社ほか
神奈川県	角野栄子「魔女の宅急便」展	神奈川近代文学館

北海道	第 27 回けんぶち絵本の里大賞・けんぶち絵本原画展	剣淵町絵本の館
東京都	第 25 回ボローニャ・ブックフェア in いたばし	板橋区ほか
台湾	絵で物語る芸術—日本の絵本の歩み展	国立台湾図書館ほか
東京都	奇喜怪快 井上洋介の絵本展（開館 40 周年記念）	ちひろ美術館・東京
全国	JPIC 読書アドバイザー養成講座	JPIC
全国	第 24 回いたばし国際絵本翻訳大賞	板橋区ほか
全国	絵本・児童図書の「読み聞かせ」キャンペーン	キッズエクスプレス 21
全国	第 35 回アンデルセンのメルヘン大賞	アンデルセン・パン生活文化研究所
静岡県	ユニバーサルデザイン絵本コンクール 2017	静岡文化芸術大学
長野県	イブ・スピング・オルセンの絵本展（日本—デンマーク 国交樹立 150 周年記念）	安曇野ちひろ美術館
東京都	第 103 回全国図書館大会	日本図書館協会
長野県	第 2 回全国絵本ミュージアム会議	全国絵本ミュージアム会議 実行委員会
新潟県	絵本ワールド in にいがた 2017	新潟日報社ほか
東京都	世界と日本の子どもの本から「子どもの本の翻訳～翻訳 だからできること、創作だからできること」	日本ペンクラブ・子どもの 本委員会
東京都	第 20 回理科読シンポジウム	NPO ガリレオ工房ほか
北海道	子どもたちの未来、子どもの本の未来	日本ペンクラブ・子どもの 本委員会
長野県	シンデレラ&プリンセス絵本展	軽井沢絵本の森美術館
東京都	いわさきちひろ生誕 100 年 Life 展	ちひろ美術館・東京
東京都	ポスト「3.11」に向き合う～7 年目の春に	日本ペンクラブ・子どもの 本委員会
東京都	ちいさいおうちのぱーじにあ・りー・ばーとん展	銀座教文館
世界	第 6 回ミツバチの一枚画コンクール	山田養蜂場

【その他の事業】

1. ボローニャ国際絵本原画展

イタリアのボローニャ・ブックフェアで開催される「イラストレーター展」入選作品を紹介する「イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」日本巡回展の事務局を務めた。2017 年度は、4 会場で実施した。

東京都	板橋区立美術館	2017 年 7 月 1 日～8 月 13 日
-----	---------	-------------------------

兵庫県	西宮市大谷記念美術館	2017年8月19日～9月24日
愛知県	高浜市やきものの里かわら美術館	2017年9月30日～10月29日
石川県	石川県七尾美術館	2017年11月2日～12月10日

2. JBBY 希望プロジェクト

IBBY のチルドレン・イン・クライシスの精神に則り、日本国内の困難な状況にある子どもたちに本を通じた支援活動を行った。

■JBBY 希望プロジェクト

東日本大震災後、子どもの本に関わるいくつかの団体とともに立ち上げた「子どもたちへ〈あしたの本〉プロジェクト; 2011-2016」で培った経験や反省をいかし、日本国内のさまざまな困難を抱える子どもたちに目をむけ、本の力で希望ある未来を届けようと、JBBY が 2017 年に発足。

ア) 支援活動

(1) 野馬追文庫（子どもたちへ〈あしたの本〉プロジェクトから継続、協力：ジネット）

放射能被害の不安が続く福島県南相馬市の施設等へ毎月 11 日に本を送った。

4月	『バルバルさん』 『たろうのひっこし』 『みんながおしえてくれました』	10月	『うんこ日記』 『おやすみなさい おつきさま』
5月	『きょうのおべんとなんだろな』 『ぼんぼこぼん』（紙芝居） 『おさじさん』	11月	『もりのてぶくろ』 『しっしょだよ』 『なぞかけどうじょう』
6月	『しっぼ、しっぼ、しっぼ、しっぼ』 『かあかあもうもう』 『おたまじゃくしの 101 ちゃん』	12月	『さんかくサンタ』 『よるくまクリスマスのまへのよる』 『ハリーのセーター』 『まどから★おくりもの』
7月	『どろんこおばけ』（紙芝居） 『点字つきさわるえほん ぞうくんのさんぽ』 『たなばた』	1月	『こいぬがうまれるよ』 『マドレーヌといぬ』 『アンジュール』
8月	『きんぎょがにげた』（大型絵本） 『すいみー』	2月	『ゆきのひ』 『このあいだになにがあった？』 『ゆき』 『ずつすつはっは こ・きゅ・う』
9月	『やさいのおなか』 『やさいのせなか』 『きよだいなきよだいな』 『非難体験談』	3月	『だるまさんが』（大型絵本） 『だるまさん 3 冊セット』 『だじゃれ世界一周』 『ぼくと 2 まい葉』

(2) 豊島子ども WAKUWAKU ネットワークへの図書寄贈

豊島区で活動する子ども食堂へ絵本や布遊具を寄贈した。JBBY 希望プロジェクト実行委員が持参し、手遊びや読みきかせを行った。

『キャベツくん』	『絵かきさんになりたいな』
『とべ、バッタ！』	『ちいさなもみのき』
『ぼくがラーメンたべてるとき』	『どろんこハリー』
『たのしいふゆごもり』	『くだものと木の実いっぱい絵本』
『おじいちゃんは水のにおいがした』	『かさどろぼう』
ぐるーぷ・ももこ、よこはま布えほんぐるーぷ 制作の布遊具やタペストリー	

(3) 習志野市フリー☆スタディ（生活困窮家庭の子どものための無料学習支援）

要請に応じ、辞書 87 冊を寄贈した。寄贈にあたり、個人会員、小学館の協力を得た。

イ) 募金活動

支援の具体的な計画とともに活動のための用途特定浄財を募った。2017 年度は、963,000 円の寄付が集まった。なお年度内に使い切らなかった募金は、決算上「前受金」として次年度に繰り越すものとする。

募金口座：ゆうちょ銀行 〇一八（ゼロイチハチ）支店（普通）2477506

口座名義：ニホンコクサイジドウトシヨヒョウギカイ

ウ) 学びの会（全 4 回、新規事業） ※「子どもゆめ基金」助成活動

支援をより有意義にするため、子どもたちが直面している困難の実情を学ぶための学習会を 4 回実施した。

1 回目	2017 年 12 月 3 日 場所：フクラシア浜松町（東京都） 「心をひらく読みあいのちから」 講師：村中李衣氏（児童文学者・ノートルダム清心女子大学教授）
2 回目	2018 年 1 月 27 日 場所：ルーテル市ヶ谷センター（東京都） 「子どもの成長とメディア——大人になれない子どもたち」 講師：田澤雄作氏（小児科医）
3 回目	2 月 18 日 場所：フクラシア浜松町（東京都） 「詩が開いた心の扉 奈良少年刑務所での試み」 講師：寮美千子氏（詩人・作家）
4 回目	3 月 3 日 場所：お茶の水女子大学（東京都） 「原子力災害が福島の親子に与えた心理学的影響の研究がとらえた事実」 講師：筒井雄二氏（福島大学教授・同大学災害心理研究所所長） （後援：ジネット（お茶の水女子大学児童学科・発達臨床学講座・発達臨床心理学講座同窓会）、お茶の水大学人間発達教育科学研究所）
参加者	のべ 176 人

3. フォーラム・子どもたちの未来のために

学習会を3回実施した。

■フォーラム・子どもたちの未来のために

「特定秘密保護法」や一連の「安保法案」が、子どもたちの未来を危うくするものと受け止め、子どもの本に携わる出版社、作家、画家、翻訳家、研究者など各方面の団体が危機感を共有して2013年に結成した連絡組織。構成団体は、絵本学会、絵本作家・画家の会、童話著作権者の会、日本児童図書出版協会、日本児童文学者協会、日本ペンクラブ「子どもの本」委員会とJBBY。会員への強制力はなく、勉強会を実施することで問題意識の拡大を図る。 <https://www.f-kodomotachinomirai.com/>

2016年度の活動

2017年10月6日 日本出版クラブ会館（東京都）	「共謀罪と表現の自由ーわたしたちはどう抗うか?ー」 登壇者：黒沢いつき、ドリアン助川、森枝卓士 各氏
2017年12月8日 日本出版会館（東京都）	「戦時下のデザインと戦争協力」講師：澤田精一氏
2018年3月9日 童心社紙芝居ホール（東京都）	「戦時下の紙芝居」講師：酒井京子氏

4. 物販

展覧会や講演会等開催時に、カタログ、講師の著作物、関連書籍等を販売した。

【組織・その他】

1. 総会・理事会等の開催

2017年5月19日	第1回理事会	IBBY アジア・オセアニア地域大会 2016年度事業報告と2017年度事業計画 総会の進行、JBBY 賞贈賞式の進行
2017年6月16日	第2回理事会	総会資料最終承認
2017年6月16日	第47回定時総会	2016年度事業報告と決算報告 2017年度事業計画と予算案 役員改選・新会長選任
2017年6月29日	第3回理事会	新旧理事意見交換 組織・財務・運営に関する引継ぎ 総会・JBBY 賞の反省

2017年7月31日	第4回理事会	ジョン・キラカ氏イベントについて IBBY オナーリストの選考について 各事業・予算進捗 会員名簿の取り扱いについて 英国ブックトラストのプロジェクトについて
2017年9月22日	第5回理事会	個人賛助会員の廃止 事務局移転について 各事業・予算進捗について IBBY アテネ大会について 2018年度助成金申請について
2017年12月12日	第6回理事会	法人会員の年度途中入会会費割引について 各事業・予算進捗について IBBY 国際理事の派遣について IBBY バリアフリー児童図書館の国内選考について 2018年度助成金申請について
2018年2月1日	第7回理事会	各事業・予算進捗について 2018年度事業計画と予算案 2020年国際アンデルセン賞国際審査員派遣について 国際子どもの本の日について
2018年3月13日	第8回理事会	各事業・予算進捗について 2018年度事業計画と予算案 バリアフリー図書館の国内選考結果 国際子どもの本の日について

2. 役員

会長(代表理事)	さくまゆみこ (翻訳家)
副会長	赤石 忍 (くもん出版取締役)
副会長	野上 暁 (日本ペンクラブ常務理事)
業務執行理事	新井征明 (会社員)
理事	宇野和美 (翻訳者)
理事	角野栄子 (作家)
理事	喜入今日子 (小学館第二児童学習局児童文芸室長)
理事	小林 豊 (画家)
理事	代田知子 (三芳町立図書館長)
理事	垂石真子 (画家)
理事	那須奈美子 (講談社第六事業局長)
理事	那須田 淳 (作家)
理事	濱野京子 (作家)

理事 広松由希子（絵本の評論、文、翻訳、展示企画）
理事 前沢明枝（翻訳家、早稲田大学・川村学園女子大学講師）
理事 松岡希代子（板橋区立美術館副館長）
理事 依田和子（よこはまライブラリーフレンド代表）
理事 鳥塚尚子（JBBY 事務局長）
監事 阿部 薫（日本出版クラブ専務理事）
監事 柏原順太（小学館第二児童学習局チーフプロデューサー）
監事 村山隆雄（聖徳大学教授）